



TITLE:

第5回岐阜外科集談会抄録

AUTHOR(S):

CITATION:

第5回岐阜外科集談会抄録. 日本外科宝函 1960, 29(2): 694-695

ISSUE DATE:

1960-03-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/207069>

RIGHT:

第5回岐阜外科集談会抄録

昭和34年10月7日 於岐阜

(1) Strangulationsileus の1異例

岐阜医大第2外科

国枝 篤郎・山田 弘

本症例はしばしば遭遇する絞扼性イレウスの1例であるが、開腹手術後、永い間にしばしば軽度のイレウス症状を繰り返す、その都度内科的治療で軽快しており、癒着による屈曲又は腸痙攣等によるイレウスと考えられる経過であつたが、手術所見で絞扼腸管係蹄は周囲と極めて強固に癒着しており、到底数日の経過で起つたとは考えられず、腸の自由移動性がなくなつても絞扼性イレウスは起り得るものである事を経験したので、慢性絞扼性イレウスとも云うべきものであると考え、注意すべきであると思ひ報告した。

(2) 虫垂炎と診断された卵巣出血の2例

木曾川病院 外科 柴田 正敏

岐阜医大第1外科 和田 英一

臨床上卵巣出血と確定診断することは極めて困難である。吾々は15才女子未婚、18才女子未婚の2例の患者について臨床上多少の疑問はあるが、虫垂炎と診断され手術によつて卵巣出血なることが認められた症例を報告し、これに若干の文献的考察を加えた。

(3) 巨大なる腸間膜根部腫瘍

岐阜医大第1外科

森 正英

本症例は61才、女子。7年前卵巣嚢腫（皮様嚢腫らしい）の剔除術を受けている患者の巨大なる腹部腫瘍の1剔除治験例である。最初腫瘍の性質上、巨大なる卵巣嚢腫を疑ひしめたが、手術を行なつたところ子宮附属器とは全然別個に横行結腸間膜根部より発生したものであり、大きさ $30 \times 23 \times 15$ cm、重量4kg、充実性で表面平滑、明確に被膜に被われ、弾力性軟、中心部は周辺部より硬い腫瘍で、組織学的検索により大部分水腫様変化あり、部分的に粘液変性を来している線維腫と診断された。

腸間膜腫瘍には原発性のものは比較的少なく、その中で実質性のものは嚢腫の1/3であると云われている。実質性腫瘍に就いても統計的文献によれば線維腫は最

も少ないものであるとされている。

(4) 縦隔腫瘍の3治験例

岐阜医大第2外科

上田 茂夫・斎藤 晃

最近教室に於て縦隔腫瘍3例を経験し、全例に剔除術を施行、全治せしめた。症例は6才の女子の左前上部縦隔に発生した過手拳大の奇型腫、19才の男子の右前上部縦隔よりの鶏卵大の気管支性嚢腫、59才の女子の左前縦隔より生じたリンゴ大の同じく気管支性嚢腫であり、術後観察期間は5ヵ月より1年6ヵ月で、何れも健康に生活している。縦隔腫瘍は良性的の場合、数年間全く無症状に経過し、偶然発見されることが多く、本症例の場合もそれに該当するものである。現在本邦に於ける剔除例はようやく100例に達する程度である。以上症例を報告するとともに文献的に統計的観察を行なつた。

(5) 悪性化する耳下腺混合腫瘍の1例

岐阜市民病院外科 米谷 淳

49才の男子。6年前より左耳介下部に無痛性腫瘤を生じ、漸次増大して鶏卵大となり、約1年3ヵ月前剔除手術を受けた。其の後1年にして同部に再び無痛性腫瘤を生じ、漸次増大して鶏卵大となつて来院した。局所麻酔の下に腫瘍を剔除し、X線深部治療総量3200γを照射した。剔除腫瘍は鶏卵大で、少しく扁平、表面凹凸不平で弾性硬、顕微鏡的には Carcinoma か悪性の Endothelioma かと思われる組織で間質の結締組織の中に小さい骨片が一、二あり、組織の一部分に耳下腺の正常組織が残っている。所によると管腔内に旺盛な増殖を呈した上皮あるいは内被細胞の増殖がある。この腫瘍は恐らく手術的侵襲によつて混合腫瘍の一部分である上皮性或は内皮細胞性の部分が悪性化したものと考えられる。なお2,3の文献的考察を試みた。

(6) 開腹ヘルニア内口閉鎖法の術式と遠隔成績

岐阜県羽島市国保直営羽島病院外科

渡部正三郎・浅井紀雄・伴 敏英

先天性鼠径ヘルニアに対して副腹直筋切開で開腹し

ヘルニア内口を閉鎖する術式を考案し、写真でその方法を紹介した。

73例の手術例は術中術後の経過がすべて順調であったが、半年以上最長2年半を経過して調査し得たものは46例で、その中不成功例が1例あつた。他は全部順調に経過している。不成功例は使用したCatgutの破綻によるもので絹糸を使用すれば起らなかったものであり、本手術の本質的欠陥ではなかつた。

本手術の特徴は次の如くである。

- 1) 腹膜鞘状突起を確実に高位で閉鎖し、再発の一番大きい原因である漏斗状部をつくらない。
- 2) 精管や血管の損傷が起らないので術後の浮腫、血腫等後障害を来す恐れがない。
- 3) 先天性鼠径ヘルニアならば全く同一の方法で広い適応を以て、比較的容易に施行出来る。
- 4) 本来の目的ではないが、右側の場合は虫垂切除が出来る。又鼠径部に手術創痕をつくらない。
- 5) ヘルニア内容が還納出来ないものは適応から除いている。

(7) 腹膜鞘状突起開存率について

国保直営羽島病院外科

渡部正三郎・浅井紀雄・伴 敏英

我々は昭和33年4月4日より昭和34年10月4日迄に行なつた下腹部開腹術(♂82名, ♀152名)の際、外鼠径窩(右側は♂82例, ♀152例, 左側は♀18例)を観察し、腹膜鞘状突起の開存率を調べた。

右側は、乳幼児♂♀各1例の検索で2例共完全閉鎖、学童期では9才迄の所、♂8例, ♀3例中、各1例に開存を認め、14才迄の所、♂15例, ♀26例中、♂♀各5例に遺残を、♂1例, ♀2例に開存を認めた。成人では♂58例, ♀122例中、♂18例, ♀16例に遺残を、♂2例, ♀8例に開存を認めた。

左側は♀18例中1例に遺残を認めた。

右側では腹膜鞘状突起の遺残は♂に高率であり、その開存は♀に高率である事、左側では♀の開存率が極めて低い事を知つた。

(8) ハイドロコート局所注射による狭窄

性腺鞘炎の治療について

羽島市国保直営羽島病院外科

渡部正三郎・浅井紀雄・伴 敏 英

狭窄性腱鞘炎8例に酢酸ハイドロコチゾン12.5mgを局注し経過を観察したところ、1~2回の注射で症状消失5例、殆んど症状消失2例、軽快1例の結果となつた。今まで我々は肥厚していると思われる腕部腕部に直接注射を行なつていたが、本年春に至り注射部位を背側腕部より末梢部の短母指伸筋及び長母指外転筋の腱が一本の腱として触れる部位を選ぶ事により画期的な効果が得られるに至つた。症例は本年のものばかりであるので遠隔成績は不明であるが、一応患者の満足は得られるようである。

(9) 尿石の溶解について

岐阜医大泌尿器科 石 山 勝 蔵

膀胱腫瘍のため2年半前膀胱全摘出並びに尿管皮膚移植を受けた68才の患者に右腎結石を認め、この溶解を試みた。

破損したFoleyのカテーテルを使用して、Solution G, 3%エチレンジアミン四醋酸液にて灌流、ウレアーゼを併用した。

かなりの効果がみられ、カテーテルに近い結石は完全に溶解したが、腎盂下端のものは残存した。薬剤の刺激作用は認めなかつた。

文献的考察を行ない、適応について考察を加えた。

(10) 乳児幽門狭窄症手術に対する1考察

岐阜医大第2外科

斎 藤 晃・鈴木 晴雄

生後1.5ヵ月の乳児の幽門狭窄症に対して、手術を行なつて全治せしめ得たが、この際にFredet-Ramstedt氏法を行なう時、誤つて十二指腸粘膜を穿破した。この穿破孔は二層に縫合しなお念のため胃空腸吻合をも併設したが術後経過、レ線所見等から、この吻合は余り奏効せず、Fredet-Ramstedt氏手術は幽門部筋層切開それ自体に重要な意味があるのではないかと考えられる知見を得たのでこれについて述べた。